

【運営方針2】実践教育の充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】多様な進路に対応した教育体制による実践に必要な技術・知識の習得強化					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1 少人数制による多様な進路に対応したきめ細やかな学習支援の充実	(1)進路決定率:100% (2)就農率:60%	① 少人数制によるきめ細やかな学習支援【継続】 専攻学科に担任を配置し、各学科において少人数でしっかり学べる教育体制とし、学生個々の習熟度に応じたきめ細やかな指導を行い、基礎から実践までの知識・技術の習得を図る。 ② 多様な進路に対応した指導【継続】 就農、雇用就農、就職、進学との4つの進路指導コースを設定し、進路の実現に向けて、きめ細かく支援する。 具体的には、農業系学科では、就農志望者に対して就農計画の作成等を指導するとともに地元農業技術普及課との連携により、スムーズな就農開始を指導する。就職志望者に対しては農業法人や農業・食品関連企業を招いた就職相談会を開催し、雇用就農や企業就職に向けた雇用マッチング支援を行う。 林業経営学科では、林業・木材関連団体が開催する合同就職説明会への参加とインターンシップを実施し、進路決定を支援する。	・ 学科単位に2～15名の少人数制で講義・実習を行い、学生の習熟度に応じて基礎から実践的技術までの習得を図る濃密な指導を実施した。 ・ 進路選択にあたっては、学生との二者面談、学生・保護者との三者面談を、随時実施し、進路決定に向けた具体的な指導を行った。 ・ 山形県若者就職支援センターによるキャリアカウンセリング(進路決定に関する相談:2回)や就職に関する講義(4回)を行い、学生の早期の進路決定を支援した。 ・ 農林大卒業生を講師に迎え、進路別に自らの体験からアドバイスをもらう「卒業生との懇談会」を開催した(5/30)。 * 2学年全員の100%の進路決定率を達成する見込みであることから、「C」評価とする。 ・ 就農コースにおいては、就農計画等の作成指導や農業法人代表者等の講義、現地視察等により、就農に向けた準備を指導した。 ・ 農業系学科の雇用就農及び就職コース対象者向けに、農業法人及び農業・食品関連企業計51社を招いての就職相談会を開催した(6/3)。林業経営学科は、やまがた森林と緑の推進機構が主催する「森林の仕事ガイダンス」(1/24)に1学年全員が参加し、就職情報を収集した。 ・ 進学コースにおいては、2名が山形大学、1名が宇都宮大学に合格した。 今年度卒業生の進路状況は、下記のとおりとなった。 ◇就職27名(即就農13、研修後就農1、農業法人等への就職10、林業・木材産業への就業3) ◇就職29名(公務員等5、農協等4、農林業・食品関連19、一般企業1) ◇進学 5名(4年制大学3年次編入3、短大1、高等技術専門学校1) * 職業として従事する就農率は44%となったが、手伝いなどを加味した就農率は57%であり、目標60%を概ね達成したことから、「C」評価とする。	C (1)C (2)C	・ 今後とも少人数制による講義、実習を実施し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・ 引き続き、担任は、学生の希望を踏まえつつ、学習や寮生活等に関する悩みを把握し、必要に応じて専門家によるキャリアカウンセリング受診を勧めるなどして、的確な進路指導に努める。 ・ 次年度も、「卒業生との懇談会」や「農業法人等との就職相談会」の開催、「森林の仕事ガイダンス」への参加とインターンシップの実施により、学生と農業法人、林業事業者等とのマッチングを図る。 ・ 就農率を向上させるため、山形県地域営農法人協議会等と連携し、農業法人へ求人票提出を働きかけるとともに、先進農林業者等体験学習やインターンシップ等により農業法人への就職のイメージを醸成する。 ・ <u>就職相談会に参加する農業法人・農業関連企業等が増え、1会場での開催が困難となったため、農業法人と農業関連企業等の就職相談会を分け開催する。</u>
2 販売力の養成と強化	(1)販売実習等の実施回数:4回	① 農大市場等における販売力の強化【継続】 学生各自が、役割分担を明確にし、意欲と責任を持たせながら、校内組織(農大市場委員会)を中心とした学生の自主的な運営を目指す。また、校内販売(農大市場)だけでなく、新庄市内等での販売機会をとりえて出張販売に向き、異なった販売環境と客層のもとで販売実習を行う。 また、商品開発のデザイン力強化に向け、東北芸術工科大学の外部講師派遣について要望等を行う。	・ 農大市場については、農大市場委員会が中心となって、学生の自主性を活かした運営となるよう取り組んだ。予定どおり4回開催し、特に4回目は、農大祭との共催としたこともあり、1,200名の来場を得た。各回とも開催に当たっては、ホームページやフェイスブック等を通じて広報した。 ・ 新庄市内で開催された「kitokitoマルシェ」へ6回出店し、地元の賑わいづくりに貢献した。 ・ 山形県農林水産祭(10/19～20)において、精米、果樹、農産加工品を販売した。 ・ デザイン力強化にあたっては、山形市のデザイナーである喜早洋氏に講義を依頼し「マーケティング実践(2学年、必修)」の中で商品開発やPOPデザイン等を学んだ。 * 当初の計画どおり農大市場4回のほか外部のイベントで6回出店することで、学生の意欲と商品力の向上につながったことから、「A」評価とする。	A	・ 農大市場(3回)をはじめとした様々な販売実習を通じて、農作物や農産加工品、卒業成果品のアンケート調査等を実施し、農産物生産や商品改善に活かしていく。 ・ 引き続き、講義の中で、商品開発やPOP作成の他、パッケージデザイン、販売管理、販売データの収集・分析等を学び、商品力向上に取り組む。
3 企画・構想力、プレゼンテーション能力の充実	(1)全国レベルでのプロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞:1件以上	① 全国規模の発表会等への参加【継続】 学習成果の発表の場としての東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞作文の部、毎日農業記録賞等へ応募する際、校内での指導をさらに強化し上位入賞を目指す。指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを結成し、指導にあたる。 パソコンやワード、エクセル、パワーポイントに不慣れな学生に対しては、集中的に指導するための時間を設定し、パソコンやプレゼンテーションの基礎を習得させる。	・ 卒業論文には2学年全員が取組み、東日本農業大学校等プロジェクト発表会へ校内審査会(12月)で選ばれた代表学生3名が出場した。意見発表の部には、8月の校内発表会を経て、1年生2名が出場した。その結果、プロジェクト発表の部と意見発表の部で「最優秀賞」を受賞するなどし、全国大会へプロジェクト発表の部で2名、意見発表の部で2名が出場した。全国大会は2月に開催され、発表内容・態度が評価され、プロジェクト発表の部では1名が「特別賞」、1名が「優良賞」、意見発表の部では2名が「特別賞」を獲得した。 ・ ヤンマー学生懸賞作文には、校内意見発表会で発表した意見を作文として、東日本農業大学校等意見発表会にエントリーした2名を除く1年生37名がエントリーし、2名が「奨励賞」を受賞した。 ・ 農林水産省が勧める「みどりの食料システム戦略」の趣旨に沿った卒業論文に14名が取り組み、みどり戦略学生チャレンジ東北大会において2名が「準グランプリ」、12名が「チャレンジ賞」を受賞した。 ・ 各賞応募にあたっては、1学年全員に対して、ワード、エクセル、パワーポイントに関する講義を行い、資料作りやプレゼンテーションの基礎を習得させた。 * 全国プロジェクト発表会・意見発表会では、3名が「特別賞」、1名が「優良賞」を受賞し、ヤンマー学生懸賞作文では、2名が「奨励賞」を受賞し、みどり戦略学生チャレンジ東北大会では、2名が「準グランプリ」、12名が「チャレンジ賞」を受賞したことから、「A」評価とする。	A	・ 卒業論文の実施にあたっては、まずは課題設定が重要であることから、「卒業論文計画発表会」にて、学生・教職員間で十分な検討を行う。 ・ 卒業研究の実施に際しては、関係機関、生産者、流通関係者等の協力・助言を受けながら取り組む。 ・ プロジェクト発表会・意見発表会等への指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務学生担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを来年度も引き続き結成し、指導する。 ・ 意見発表・懸賞作文については、外部講師による作文指導が効果的であったことから、来年度も引き続き実施する。 ・ みどり戦略学生チャレンジについては、来年度も「みどりの食料システム戦略」の趣旨に沿った卒業論文の指導に取り組む。
4 農大祭の充実【新規】	(1)東北農林専門職大学と連携した農大祭:1件	① 東北農林専門職大学と連携した農大祭の開催【新規】 新設の東北農林専門職大学と連携しながら大幅に内容を見直し、学生の満足度が高く、地域から喜ばれる取組みにする。	・ 農林大在校生と専門職大学学生は、合同で農大祭実行委員会を結成し、会議を5回開催し、農大祭の企画や企業から運営資金を募り、パンフレット作成や運営に当たった。 ・ 農大市場による農林産物・農産加工品の販売や模擬店営業による飲食物の販売、ステージイベントの実施、農業高校生の農産物の販売などが行われ、来客数は1,200人となった。 * 専門職大学学生と連携し開催できたことや来客数が極めて多いことから、「A」評価とする。	A	・ 引き続き、専門職大学と連携し、学生の満足度が高く、地域から喜ばれる農大祭を開催する。

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 2学年全員の進路決定を達成する見込みである。職業として従事する就農率は44%となったが、手伝いなどを加味した就農率は57%であり、目標60%を概ね達成した。 農大市場を計画どおり4回開催しながら、販売力強化に繋げることができた。 プロジェクトチームを中心に指導を強化した結果、全国農林大学校等プロジェクト発表会・意見発表会において、3名が「特別賞」を受賞することができた。 	A

学校関係者評価(意見)	学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<ul style="list-style-type: none"> 就農率向上に向け体験学習を通じた農業法人への雇用就農拡大に期待する。 海外への研修生がいなかったことは残念である。若い時にしかできない経験なのでトライしてほしい。 本年度の農大祭の来場者の多さに盛況さを感じた。次年度も期待したい。 林業・木材産業への就業者が3人と少なく、不安な面もあり向上に努力してほしい。 イベントの開催や参加を通して、学生がどのように成長できたか、どのように学習効果につながったか等を測る指標などについても検討してほしい。 JAや農林業・食品関連会社への就職も高い割合となっており、就農率44%を含めて大学校として十分な成果を発揮している。進路決定率100%、就農率60%を概ね達成する見込みであり評価できる。 全国農業大学校等プロジェクト発表会での特別賞受賞等学生のレベルの高さが現れており高く評価できる。 これまでの取り組みの継続とあわせ、専門職大学との連携や高校農業部会との連携についても更なる充実を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用就農拡大について → 先進農林業者等体験学習を1年次に2回実施し、インターンシップも実施することで、農業法人での経験を積み、農業法人への就職を含めた就農支援を行う。 海外研修等の経験について → 海外研修には高額な費用に係るため一概に実施することは困難な面があるが、希望のある学生には国内外を問わず研修後就農等の支援を行う。 農大祭について → 内容の充実を図るとともに、農大祭を通じて大学校をPRするため、チラシによる地域への周知やホームページとSNSで積極的に情報を発信する。 林業・木材産業への就業者について → 森林組合等へのインターンシップを積極的に行い、林業・木材産業への就職の理解促進を行い、林業・森林産業への就業者の増加を図る。 イベント等での学習効果の指標について → 学生へのアンケート調査などを通じて、学生の学習意欲の向上について把握する。 進路決定について → 今後も進路コース別指導を実施し、学生の希望に沿った進路への対応を行う。 全国農業大学校等プロジェクト発表会について → 卒業論文等の作成に関して積極的な指導を行うとともに、東北・全国発表会に向けてプロジェクトチームによる発表指導を継続する。 専門職大学や高校農業部会との連携について → 専門職大学の職員による講義や農大祭の専門職大学との開催や農大祭や卒業論文発表会への農業高校の参加などを通じ、専門職大学や高校農業部会との連携の充実を図る。 	A